



但馬 地区

豊岡復興建築群

旧豊岡市の中心である「大開通り」等には、1925年（大正14）5月の北但大震災後に復興した建物が数多く残っている。但馬地方に居住していた朝鮮半島にルーツをもつ人々は、自ら被災したにも関わらず救援活動を行った。



出石神社

天日槍（アメノヒボコ）は朝鮮半島から日本に渡来した人々が信仰した神様と考えられている。



東井義雄記念館

豊岡市但東町佐々木に生まれる。苦学の末、「どういう状況になっても立ち上げられる子ども」の育成に尽力、命の素晴らしさを説く。



西光寺



1911年（明治44）に完成した山陰線桃観トンネルの工事では朝鮮人労働者も犠牲となった。トンネル完成後、西光寺は民族の区別なく、亡くなった人を弔う追悼会を行った。西光寺のレンガ塀は朝鮮人労働者や関係者から贈られたもの。



但馬長寿の郷

地域間・世代間の交流事業、高齢者をはじめとする住民の生きがいをづくり支援や、保健及び福祉にする講習会や実習を行っている。



法泉寺

戦前から戦後の但馬を舞台に知的障害のある青年と村の人々とのあたたかい交流を描いた物語「じろはったん」は、法泉寺の鐘つき堂から物語が始まる。



日本・モンゴル民族博物館

「モンゴルの暮らしと文化」をテーマに、草原の豊かで多様な自然環境と、そこに暮らす人々との関わりを紹介している。子どもから高齢者までが世代を超えて交流し国際交流活動やモンゴルのことをより興味深く知ってもらうための講座サークルも設置されている。



心諒尼墓標

元文3年（1738）、百姓一揆が起こり、死罪6人を含む23人の犠牲者が出た。小山弥兵衛はこの一揆の首謀者のひとりで、長崎県壱岐島に流罪となった。祖父の弥兵衛に会いたい一心で尼となった心諒尼は、祖父を訪ね壱岐島に渡り、祖父を介護した。

